



今月の援農状況

Let's Activate Area AGRI

- 夏物野菜苗 — トマト・キュウリ・茄子 など — の露地への定植作業が継続しています。
- 一方で ハウスものの トマト・キュウリは 収穫がはじまりました。初物の味は やはり格別なようです。
- 上旬の筍収穫に続き 下旬には若竹倒しの作業依頼をいただきました。

援農体験記 「楽しい援農生活」 元本郷町 大石祥子

今月の半ばから小比企の農家さんのところに通い始めました。自転車を駆って20分程。富士森と山田のふたこぶをこえと、小比企の畑や林の緑、風や光がとても心地良く感じられます。収穫や種まき、草取り、出荷のお手伝いなどの作業をさせてもらっていますが、どれもとても楽しく、幸せを感じます。

兼業農家とはいえ、自分の育った環境や幼い頃の原体験というようなものが、人生の幸福観に繋がっているのだと実感しました。我が家の暮らしには小さなプランターしかなくても、母が嬉々として通い、話すことで子ども達にも農への関心や幸せの芽が育ってくれたらいいなあと思っています。また、早く作業に慣れて農家さんの一助となれば幸いです。

農園・SPP・イベント便り

☆ 農家の計画・管理・指導のもとでの主体的な援農作業
☆ 技術体得・会員交流・遊休地対応の活動



ポピー畑の花壇 / すずらん畑 風景



◇カ石

エンドウの収穫がはじまりました。旬は2週間ほどの短い期間です。6月上旬からあと地はさつま芋畑に変身します。

◇根付け

赤土の畑を十分に深耕し 自産のさつま芋苗を500株ほど定植。大実生姜を少し日影となる場所に試験的に定植。

◇すずらん

さとも・京芋・ミニトマト・キャベツ等を新たに定植。じゃが芋も元気。玉葱・大蒜は6月上旬に収穫の予定。堆肥—安定的に供給いただけるルートが確立できる見込。作業小屋の片隅で 子猫4匹が誕生していることを発見。

「雉一家放棄田より歩み出る」 (現代農業)



口蹄疫と有機農業 元横山町 鈴木 省司

このところ連日テレビや新聞で報道されているから牛や豚の伝染病、口蹄疫の事は国民的関心事になり、肉の値段が上り困るとか、感染していない牛や豚も十数万頭と殺処分されるのが可哀想と、すずしろの皆様も感じていると思います。

私は日本農業新聞という日刊紙を購読しているので4月段階から知っていましたが、朝日、読売などが大々的に取り上げたのは5月17日以降で、対応が遅すぎると思いました。大マスコミが現在(5月24日)でも言及していない影響の中に有機農業への影響があります。牛や豚がいなくなって牛糞や豚糞が入らなくなったら有機肥料に依存する農業は大変です。東京都や市に防疫の万全な措置を望みます。

チョット耳にした情報・アドバイス



(1) 「九十九夜の泣き霜」

「夏野菜の定植は5月連休明けから」との説を4月報で紹介しましたところ5月11日になんと遅霜注意報がだされました。これを称して「九十九夜の泣き霜」というとか。

(2) 「旬産旬消」

野菜は その旬に収穫できるよう栽培されたものを その旬に食するのが生産エネルギー・コスト面で理想的であり 味も一番おいしくいただけるとの四字熟語。いかがでしょう。

(3) 「『里守り犬(さともりいぬ)』が村を救う」

猿による農作物被害の深刻さが 折々に報じられていますが「鳥獣被害防止特措法」の施行により訓練された犬の放し飼いが認められるようになったとのこと。山梨で試行中。

事務局からのお知らせ 人材—農家需要 と市民意欲のマッチング

(1) たけのこ掘り

季節の推移の速さを”たけのこ”に感じます。— 5/7までに開催したイベントは計4回、参加者50人 240kgの収穫 — 25日には若竹倒しが始まりました。

(2) 市民活動協議会主催「にぎわい座」

5/22 クリエイトホールで開催され すずしろ22の活動状況を紹介しました。出席者は80人ほどと盛況。多摩地区のさまざまな団体との情報チャンネルを入手しました。

(3) 会報紙への投稿 歓迎

本紙への寄稿を歓迎。対象コーナ・欄は「援農体験記」「右上トピックス」で いずれも300字「チョット耳に・・・」は80字程度。〆切は毎月25日。投稿 大歓迎。

<発行 会報紙編集会>

合津 highz_85@cosmos.ocn.ne.jp 飛田 emiko_tobita@ybb.ne.jp 川口 leaf_river-86@nifty.com